

日本性科学会 ニュース

第40巻第4号

令和3年(2021年)12月

発行人: 針間 克己 印刷所: 潮文社

2022年研修会・学術集会・研究会予告

第15回 日本性科学会近畿地区研修会

今年の日本性科学会近畿地区研修会は、2022年3月12日(土)・13日(日)に大阪市中央公会堂で開催される第23回GID学会研究大会内で共催シンポジウムを行います。

GID学会／日本性科学会近畿地区研修会共催シンポジウム

タイトル: 性腺摘出後のリスク ～性腺の解剖学と機能をふまえて～

登壇者: 【男性のからだ】 聖隷浜松病院 今井 伸 (本会幹事)

【女性のからだ】 京都大学名誉教授、名古屋学芸大学看護学部教授 菅沼 信彦 (本会理事)

日時: 2022年3月13日(日) 9:00～10:30 (予定)

会場: 大阪市中央公会堂

予定単位: 共催シンポジウムへの参加 5単位

GID学会2日間のうちどちらか1日に参加 5単位

(※合計で10単位)

参加費: 医師・看護職・心理士・教師等資格取得者・研究者: 10,000円

一般(上記以外): 3,000円

問い合わせ先: 大会HP <https://convention.jtbcom.co.jp/gid23/> をご参照ください

第51回 セックス・カウンセリング研修会

テーマ: ICD-11が示す「性の健康に関する状態」～治療の実際～

日時: 2022年5月29日(日)

会場: オンライン開催 (Zoom)

第41回 日本性科学会学術集会

大会長: 森 明子 (湘南鎌倉医療大学看護学部長・教授)

日時: 2022年8月28日(日) ※予定

会場: 湘南鎌倉医療大学 (神奈川県鎌倉市) ※予定

※コロナの感染拡大の状況によっては変更の可能性あり

『日本性科学会雑誌』第39巻第1号の掲載内容に関する訂正

本年度発行いたしました『日本性科学会雑誌』第39巻第1号の内容に誤りがありました。

13ページ「4. 学術集会」に「例外は豪雪のため急遽中止となった第24回大会(2004新潟市)である」とありますが、第24回大会の中止は豪雪のためではなく、2004年10月23日に発生した新潟県中越地震の影響によるものです。お詫びして訂正いたします。

Vol. 40

№.
4

日本性科学会

〒113-0033 東京都文京区本郷3-2-3 森島ビル4F

TEL・FAX 03-3868-3853 E-mail office@sexology.jp

URL <https://sexology.jp/>

第25回性の健康世界学会 参加報告

2021年9月9日～12日(現地時間)に南アフリカのケープタウンで第25回性の健康世界学会が開催されました。コロナ禍のため史上初の完全オンラインでの開催となった今回の大会には日本からも多数の参加者がチェックインしました。早乙女智子副理事長、田中奈美幹事、西佳子幹事からのレポートです。

公益財団法人ルイ・パストゥール
医学研究センター研究員
神奈川県立足柄上病院非常勤医師
早乙女 智子

WASに初めて参加したのは1995年の横浜で、ポスター賞をいただきました。2000年には神戸でAOFS(アジアオセアニア性科学学会)が開催されました。国際学会でありながら国内開催しか参加できていませんでしたが、2009年にオスロでWPATH、イエテボリでWASが続けて開催されたのをきっかけに、それから毎年、WASまたはAOFSに参加しています。

2019年はメキシコシティでの開催でした。今年はWASにとっても初のアフリカ開催ということで気合が入っていましたが、COVID-19のためにオンライン開催となりました。とはいえ、大変工夫されたプログラムで、随所にちりばめられた配慮によって行った気になれる素敵な体験でした。

2017年の理事選では落選し、2018年から学術委員に任命されており、メキシコ大会では学術委員としてScientific lectureをさせていただき、今回は現在取り組んでいるObstetric Violence and Women's Autonomy(産科暴力と女性の自律)についてKEYNOTE LECTURE 枠で講演させていただきました。

毎回、日本からは30名前後の参加者でにぎわっていましたが、今回はオンラインとのことで、日本からの参加者も増えたのではないかと考えています。

WASは学際的な学会で、医学だけでなく心理学や社会学、教育学など、性に関わる様々な関係者が世界中から集まる貴重な機会です。理事長、副理事長をはじめ、私も含めた理事が時代に沿った提言やプログラムを考えています。いずれまた日本での開催もあると思います。どうぞ、皆様引き続きWASへのご参加もよろしくお願いいたします。

つくばセントラル病院産婦人科
田中 奈美

早乙女智子先生と行った周産期の性機能調査“Sexuality of Japanese women during pregnancy and postpartum under COVID-19 pandemic”を第25回性の健康世界学会で発表することになり、初の国際学会発表だけどオンラインだから、と気軽に応募。ある日「おめでとうございます!あなたの演題はPrerecorded oral presentationに当選しました!」み

たいな明るいノリのメールがあり仰天、大慌てでの準備でした。今回Whovaというオンラインイベント用のアプリで運営されたのですが、開催前からアイスブレイクで自己紹介が盛んに行われ、携帯でも全ての動画を見ることができ、また興味のある話題でグループを作成して参加者とやりとりできたりと、オンラインでも十分楽しめる仕組みが様々で、バーチャル学会はここまでできたのか!と感心しました。日本時間の夜中3時30分～(現地20時～)が私の発表のSexual Medicineのセッションで、念のためPCの前に座ってみたのですが、その時間帯には何の質問も音沙汰もなく寂しい気持ちに……。とても全ての話題をフォローできませんでしたが、性の健康に関する世界の潮流と雰囲気を感じることができました。今回のテーマが“Leave No One Behind”だったのですが、日本が取り残されないかが心配になる現状。まだまだ日本性科学会の果たす役割は沢山ありますね。皆様のお力をいただき連携しながら少しずつ前に進みたいとの思いを強くした今回の経験でした。

北里大学看護学部
西 佳子

『Leave No One Behind-誰も置き去りにしない-』をテーマに25th Congress of the World Association for Sexual Healthが喜望峰の根本に位置する南アフリカ・ケープタウンで開催されました。大会長Dr. Elna Rudolph氏のもと、シンポジストは57名、一般演題は全体305題の発表があり盛大に行われました。日本性科学会の副理事長である早乙女智子先生がKEYNOTE LECTUREでお話されたほか、一般演題では日本性科学会員の田中奈美先生、西佳子をはじめとする9名の日本からの参加者が発表しました。今回私は、第22回性の健康世界学会の参加に次ぎ2回目の参加でした。当初はポスター発表の予定でしたが口頭発表の連絡を受け、初の英語プレゼンテーションに慌てましたが、看護師を対象とした調査『Analysis of nurses' sexuality care for gynecologic tumor patients-Nurses' reactions and challenges after study session-』¹について15分間発表しました。類似演題から多様な文化の中でも人々のセクシュアリティに対する看護者への教育が患者ケアの質向上に繋がることを実感し、心強く感じました。2023年のWAS参加は是非、現地を堪能しながら性科学に触れていきたいです。

第40回 日本性科学会学術集会報告

はりまメンタルクリニック 針間 克己

2021年10月24日に第40回日本性科学会学術集会を開催しました。当日の報告の前に、コロナ禍での開催を記録するという意味も込め、開催までのいきさつも記します。

当初は2020年10月25日に御茶ノ水ソラシティで開催予定でした。第40回という節目の大会であり、私が新理事長に就任して最初の大会であり、とやる気が十分に出る理由が満載でした。五輪を意識して、テーマは「Love and gender Tokyo 2020」にしました。開催前年の2019年の年末頃までには特別講演やシンポジウムの内容も固まっていた。しかし、2020年に入るとコロナが始まります。緊急事態宣言、各種イベントの中止とともに、学会も次々と中止となりました。10月開催でしたので、しばらく様子を見ていましたが、やはり開催は断念し、1年の延期としました。ただ、オンライン会議の活用という新たな手段を覚え、学会開催予定日に、代替として第49回セックス・カウンセリング研修会を開催しました。これは多くの参加者がいて、トラブルもなく無事終了し、学会の新たな方向性を示せました。

その後、1年延期しての開催予定としました。テーマは、コロナ禍の終息の願いも込め、新たに「rainbow after the storm」としました。講演やシンポジウムは、不測の事態に備え、内容を見直しました。対面式の通常学会も何とか可能にならないかと願いましたが、五輪開催期の8月に爆発的に感染が拡大し、オンライン開催としました。

そういった経緯を経て、2021年10月24日、オンラインで第40回日本性科学会学術集会を開催しました。

最初、私が会長講演をさせていただきました。内容は、新理事長としてのあいさつを兼ねて、性科学という学問の今後の在り方について私見を述べました。性科学という学問の探求の前提として、性の人権と健康の尊重があるが、そのためにも、やはり学問をしていくことが大切であるという内容です。

一般演題は、学会開催の不透明さから、応募の声かけは控えていたにもかかわらず、10題の演題がありました。これまでの学会では、シンポジウムと別会場で一般演題を行うことも多く、その場合、せっかくの発表を聞くことができないこともありました。今回はオンラインで一本化してやっ

た分、すべての一般演題を漏らすことなく聞くことができました。演題は学術的にもレベルが高く、聞きごたえがありました。また質疑も活発で、会場だと質問をしづらい方も、オンラインだと逆にしやすいこともあるのだな、と認識を新たにしました。

坂口菊恵先生の教育講演は「クラインフェルター症候群：性分化の非典型性が個別最適化教育への架け橋となる」というタイトルで、性分化の非典型性とASDなどの特徴ある発達の生物学的関連性を論じたもので、大変興味深いものでした。なかでも、紹介された「すべての脳は人類にとって役に立つ」という言葉が印象的でした。個人的には「役に立つ」という考え方はあまり好きではないのですが、「すべての人間は大切である」と置き換えることもできます。私の講演で述べた、ナチス時代にアスペルガー医師のした非人道的行為に対する、未来における一つの回答を教えてもらった気持ちでした。

阿部輝夫先生、大川玲子先生には、これまでの半世紀にわたる性の臨床の経験をお話していただきました。阿部先生の御講演はセックスセラピー全般にわたる内容で、どれも興味深かったのですが、中でも、今や日本人の誰もが知っている「セックスレス」という言葉を生み出した秘話を聞いたのがよかったです。大川先生は産婦人科の立場からの御講演でしたが、日本で性科学を開拓してきた、情熱と信念の強さをあらためて感じました。二人の先生には理事長、副理事長として、長年にわたり日本性科学会を支えていただきました。会場での学会であれば、花束等を贈呈したかったのですが、それはかないませんでした。あらためて、この場で感謝の気持ちを伝えたいと思います。

最後のシンポジウムは「ICD-11が示す性の健康とこれから」というテーマで、織田裕行先生、今井伸先生、田中奈美先生に御講演をいただきました。精神科医、泌尿器科医、産婦人科医のそれぞれの立場から、2022年1月に実効となる、ICD-11の「性の健康に関連する状態」について、様々な視点から論じていただけたと思います。

今回の学会はコロナ禍でのオンラインという異例の開催でしたが、残念な部分もある一方で、以前ならできない形式での開催ができたという、新しい時代を感じさせる学会とも思いました。皆様ありがとうございました。

2022年・2023年 日本性科学会理事選挙に関する告示

理事選挙管理規程に従い、2022年・2023年の理事の立候補を受け付けます。

立候補希望者は事務局にお申し出ください。

なお、ブロックについては、第4回総会の承認に基づき、全国1ブロックとします。

1. 定 員 10名以内
2. 立候補資格 2021年12末日現在、入会後満3年を経過し、会員5名によって推薦された正会員
3. 立候補締切 2022年2月15日
4. 申し出先 日本性科学会 選挙管理委員会
〒113-0033 東京都文京区本郷3-2-3 森島ビル4階
TEL・FAX 03-3868-3853 メール office@sexology.jp

2021年12月20日

日本性科学会選挙管理委員会 委員 石丸径一郎
花村 温子

選挙日程

理事当選者発表 2022年3月（候補者が定員を上回る場合は会員の投票による）

新理事の総会承認 2022年5月（予定）

以 上

2021年度資格認定結果

資格認定委員会委員長 大川 玲子

日本性科学会「セックス・カウンセラー」「セックス・セラピスト」資格認定規定（日本性科学会雑誌および日本性科学会ホームページに掲載）に基づき、2021年度の新規資格認定および資格更新の手続きが行われました。厳正なる資格審査の結果、以下のように更新セックス・カウンセラー1名、更新セックス・セラピスト1名が認定されました。

新規認定

セックス・カウンセラー 該当なし

セックス・セラピスト 該当なし

更新認定

セックス・カウンセラー 荒木乳根子

セックス・セラピスト 及川 卓

来年度も新規資格認定および更新認定（2017年資格取得者が該当）の続きが行われます。申請を希望される方は、日本性科学会雑誌2021 Vol.39 NO.1掲載の資格認定規定ならびに資格更新規定をご熟読のうえ、ご準備をお願いいたします。特に、学術集会・研修会などにご出席の際の受講証・参加証は必ず保管してください。申請の詳細は2022年6月発行のニュースに掲載されます。

日本性科学会 一般社団法人化について

日本性科学会副理事長 早乙女 智子

2021年5月30日（日）に開催された2021年度総会にて承認をいただいて法人化作業を進めています。

法人化するには登録費用と毎年の法人税がかかりますが、対外的には法人格を有することで社会的な信用力が増し、学会運営の事業活動の幅が広がることが期待できます。2022年5月29日（日）に開催予定の総会で一般社団法人として新たなスタートが切れるように、規約や資格認定制度の見直しのほか、明文化されていない運用部分の検討整理の作業を急いでおり、執行部はもとより事務局の多大なる貢献に感謝しています。本学会の歴史を継ぎながら、新しい性科学の時代を切り開く気概で進めたいと思います。

このたびの法人化についてのご意見、ご要望、ご質問などがございましたら、事務局までメールでのご連絡をお願いいたします。

office@sexology.jp（開室時間：月・水・金 11:00～14:00）